
データの同期と共有 ユーザ ガイド

[FAMILY Given]

データの同期と共有：ユーザ ガイド

[FAMILY Given]

発行日 月曜日, 22. 6 月 2020

製作著作 © OX Software GmbH。 このドキュメントは OX Software GmbH の知的所有物です。

このドキュメントの全部または一部をコピーする場合、各コピーにこの著作権情報を明記する必要があります。このドキュメントの内容は細心の注意を払って編集されていますが、情報の誤りを完全に排除することはできません。OX Software GmbH、著者、および翻訳者は、記述の誤りとそれによって生じる結果について、いかなる責任も負うものではありません。このドキュメントで使用されるソフトウェアの名称およびハードウェアの名称は登録商標である可能性があり、無償での使用が保証されているものではありません。OX Software GmbH は原則的に、製造元によるつづりの表記に従います。このドキュメントでは（注釈を付記せずとも）ブランド名、商標、ロゴなどを使用していますが、（商標とブランド名に関する法律により、）これらのブランド名等を無償で使用できることを示すものではありません。

目次

1 このドキュメントについて	5
2 Driveアプリケーションの用途	7
3 Drive アプリケーションをインストールします。	9
3.1 デスクトップ クライアントのインストール	10
3.2 モバイルデバイスへのインストール	11
4 Drive アプリケーションを使用します。	13
4.1 ワークステーションでの使用	14
4.1.1 同期データを表示します	15
4.1.2 同期データを変更	15
4.1.3 macOSのFinder Extensionを有効にする	16
4.1.4 ブラウザにファイルを表示	16
4.1.5 ブラウザでOffice ドキュメントを編集	16
4.1.6 パブリックリンクを使った共有	17
4.1.7 共有アイテムへの招待	18
4.1.8 同期を一時停止	19
4.1.9 Driveアプリケーションを閉じる	19
4.1.10 ワークステーションでの設定	20
4.2 モバイルデバイスでの使用	22
4.2.1 オブジェクトの閲覧、検索、ソート	23
4.2.2 オフラインでオブジェクトを利用可能にする	24
4.2.3 新規オブジェクトの作成	24
4.2.4 オブジェクトを管理	25
4.2.5 オブジェクトの共有	26
4.2.6 写真やビデオのための特殊な機能を使用	27
4.2.7 モバイルデバイス上での設定	28
4.3 注意	29
索引	31

1 このドキュメントについて

このドキュメントを活用するために理解しておくべき情報を次のトピックごとに説明します。

このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、デスクトップまたはモバイルデバイスのファイルやフォルダーをDriveアプリケーションを使ってグループウェアサーバーと同期したいユーザーを対象にしています。

このドキュメントの前提は何ですか？

このドキュメントはユーザーがモバイルデバイスを使うことができるという前提で書かれています。

このドキュメントに記載されている内容

このドキュメントは、次の情報が含まれます。

- [Driveアプリケーションの用途](#)では、Driveアプリケーションの使用方法について説明します。
- [Drive アプリケーションをインストールします。](#) では、お使いのシステムに Drive アプリケーションをインストール、セットアップする方法について説明します。
- [Drive アプリケーションを使用します。](#) では、Drive アプリケーションの実際の使用方法について説明します。

このドキュメントでは、グループウェアの一般的なインストール方法と構成方法について説明します。ご利用のグループウェアのインストール バージョンならびに構成によって、記載の方法と異なる場合があります。

その他のヘルプ

グループウェアに関する全般的な情報は、Groupwareのユーザーガイドを参照してください。

2 Driveアプリケーションの用途

Driveアプリケーションはワークステーションまたはモバイルデバイスにインストールされています。Driveアプリケーションを使って、サーバ上のファイルやフォルダにアクセスできます。Driveアプリケーションはローカルマシン/モバイルデバイスとサーバ間でデータの同期が行えます。同期するデータを指定します。

- ワークステーションで同期するには、次のフォルダを指定しなければなりません。
 - お使いのワークステーション上にあるローカル フォルダ。
 - Groupwareサーバ上の1つ以上のフォルダ
- Androidモバイルデバイスではさらに写真やビデオをサーバへアップロードすることも指定できます。この機能はカメラアップロードといいます。

サーバに適用した変更は、ワークステーションとモバイルデバイスに反映されます。ワークステーションとモバイルデバイスに適用した変更は、サーバとその他のデバイスに反映されます。

構成によっては、ワークステーション上の次のフォルダを同期するように選択できます：

- 個人用フォルダ
- パブリックフォルダ、共有フォルダ

モバイル デバイスでは、プライベートフォルダの内容のみが同期されます。

読み取りまたは編集アクセスのあるファイルおよびフォルダを共有することによって、他のユーザまたは外部のパートナーと協力するにはDriveアプリケーションを使うことができます。

次のシステムがサポートされています：

- Windows
- macOS
- iOS
- Android

3 Drive アプリケーションをインストールします。

Driveアプリケーションのインストールの仕方を学ぶ：



- [ワークステーションでのインストール](#)
- [モバイルデバイスでのインストール](#)

注：この機能を使用するには、グループウェアサーバで、Driveを利用可能にする必要があります。詳細は、管理者またはホスティング事業者にお問い合わせください。

3.1 デスクトップ クライアントのインストール

ワークステーションでDriveアプリケーションをインストールする

1. グループウェアを使用して、ご利用のシステム [7]に適したインストールプログラムをダウンロードします。Groupwareサーバ構成によって、次のオプションがあります：

- メニュー バーの右側にある **システム メニュー アイコン**  をクリックします。メニューのご利用の**デバイスを接続**をクリックします。ウィザードが起動します。ウィザードの指示に従ってください。
- メニュー バーの右側にある **システム メニュー アイコン**  をクリックします。メニューで、**設定**をクリックします。サイドバーで**ダウンロード**をクリックします。表示エリアの**ダウンロード**の指示に従ってください。

Groupwareサーバの構成によっては、インストール情報のDriveウィジェットがポータル ページに表示されます。

2. インストール プログラムを起動します。ウィザードでは、手順ごとに説明が表示されます。画面の指示に従います。

インストールが完了するとすぐに、**セットアップ ウィザード** が表示されます。

3. ようこそ！ ドライブページに次の情報を入力してください。

- ご利用のGroupwareサーバーユーザー名またはメールアドレス
- ご利用のGroupwareサーバーのパスワード

次へをクリックします。

4. メールアドレスの代わりにユーザー名を入力するか、サーバーURLが検出されていない場合は、サーバーURLを入力できるウィンドウが表示されます。

5. ワークステーションのオペレーティング システムによっては、次のステップが異なります。

- MS Windows ワークステーションの場合、ローカルフォルダと互いに同期するサーバのフォルダを指定します。設定が完了した **ドライブ** で指定することができ、**ページ**で開始します。そのために、**フォルダ設定のカスタマイズ**をクリックします。フォルダ設定 ページが表示されます。
 - ローカルフォルダを選択するには、**ローカルフォルダ**の隣にある**変更**をクリックします。ローカルフォルダに入ります。
 - サーバのフォルダを選択するには、**同期フォルダ**の隣にある**変更**をクリックします。サーバのフォルダを一つ、または複数選択します。フォルダ設定を完了するには、下部の**アイコン**をクリックします。
- macOS ワークステーションの場合は、どのフォルダを同期したいか聞かれます。

Drive設定で、インストール後にそのフォルダーを再指定できます。

すでにデータのあったローカルフォルダを指定するときには、データがローカルでサブフォルダに移動します。毎回お知らせがあります。

6. 設定を完了するには **開始**をクリックします。

結果：フォルダが同期されます。データ量によって、このプロセスに多少時間がかかることがあります。

3.2 モバイルデバイスへのインストール

ワークステーションでDriveアプリケーションをインストールする

1. ご利用のモバイルデバイスのアプリケーション ストアにアクセスします。Drive アプリケーションをインストールします。

グループウェア設定のサイドバーにある **ダウンロード** をクリックすると、Groupwareサーバにダウンロード リンクが表示されます。

Groupwareサーバの構成によっては、アプリケーション ストアへのリンクウィジェットがポータル ページに表示されます。

2. インストールが完了すると、ウィザードが起動し、次に行う手順が指示されます。
 - グループウェアサーバのサーバ URL を入力します。
 - グループウェアサーバの認証情報を使用します。
 - 写真やビデオをグループウェアサーバにアップロードするかどうかを指定できます。あとで設定の機能を有効、もしくは無効にすることができます。

設定が完了するとすぐに、個人用Driveフォルダが表示されます。フォルダをオフラインで利用可能にするには、次の手順に従います。

- a. フォルダの隣にあるメニューアイコンをタップします。
- b. メニューで**オフラインで利用可能** を有効にします。

結果：フォルダの内容がモバイルデバイスにダウンロードされます。その結果、オフラインでも利用可能になります。データ量によって、このプロセスに多少時間がかかることがあります。

4 Drive アプリケーションを使用します。

Driveアプリケーションをインストールするとすぐにバックグラウンドで動作しますので、ユーザは何も操作する必要はありません。ただし、情報の確認や構成する際は、それらの機能を使用できます。Drive アプリケーションをワークステーションで使用するか、モバイルデバイスで使用するかによって使用可能な機能が異なります。

- ワークステーションでは、次の機能が利用できます。
- モバイルデバイスでは、次の機能が利用できます。
- [利用ガイドライン](#)

4.1 ワークステーションでの使用

ワークステーションでは、次の機能が利用できます。

- 同期データを表示します (p. 15)
- 同期データを変更 (p. 15)
- macOSのFinder Extensionを有効にする (p. 16)
macOSワークステーションでは、開く機能や共有機能を利用する前にFinder Extension を有効にしてください。
- ブラウザにファイルを表示 (p. 16)
- ブラウザでOffice ドキュメントを編集 (p. 16)
- 他のユーザまたは外部パートナーとのファイルおよびフォルダの共有できます：
 - パブリックリンクを使った共有 (p. 17)
そのリンクをパートナーに送ることができます。データは読み取り権限で共有されます。他の権限は付与できません。
 - 共有アイテムへの招待 (p. 18)
データは読み取り権限または編集権限で固有の内部ユーザまたは外部パートナーと共有されます。一人の人に対して権限を指定できます。
- 同期を一時停止 (p. 19)
- Driveアプリケーションを閉じる (p. 19)
- ワークステーションでの設定 (p. 20)

4.1.1 同期データを表示します

同期データを表示

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. コンテキストメニューでは、次の機能を使用します：
 - Windows システムの場合：
以前に変更されたデータの一覧を表示するには、以前に変更されたデータを選択します。
システムのファイルブラウザでローカルフォルダーを開くには、Drive フォルダを開くを選択します。
 - macOS システムの場合：
システムのファイルブラウザでローカルフォルダーを開くには、Drive フォルダを開くを選択します。

関連トピック

[同期データを変更 \(p. 15\)](#)

4.1.2 同期データを変更

同期するフォルダを変更できます。

ワークステーションの同期するフォルダを変更する

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. コンテキスト メニューから設定を選択します。
3. 設定ウィンドウのアカウントを選択します。次のアクションを行います。
 - Windows システムの場合：
有効アカウントタブの同期フォルダを変更をクリックします。
 - macOS システムの場合：
同期フォルダの隣にある変更をクリックします。

関連トピック

[同期データを表示します \(p. 15\)](#)

4.1.3 macOSのFinder Extensionを有効にする

Office 文書を開けるようにしたり、Finder のヘルプでオブジェクトをmacOS ワークステーションで共有できるようにするには、DriveFinder Extensionを有効にしてください。

Mac OS ワークステーションでDrivemacOS Finder Extension を有効にする

1. システム環境設定を開きます。システム環境設定ウィンドウでExtensionsを選択します。
2. Extensionsウィンドウで、Finderを選択します。Drive Finder Extensionを有効にします。

関連トピック

- [ブラウザにファイルを表示 \(p. 16\)](#)
- [ブラウザでOffice ドキュメントを編集 \(p. 16\)](#)
- [パブリックリンクを使った共有 \(p. 17\)](#)
- [共有アイテムへの招待 \(p. 18\)](#)

4.1.4 ブラウザにファイルを表示

ブラウザにローカルDriveフォルダからファイルを開く

ブラウザにファイルを表示する

注：この機能をmacOSワークステーションで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ご利用のシステムのファイルブラウザでローカルDriveフォルダを開きます。
2. ローカルDriveフォルダでファイルのコンテキストメニューを表示します。
ブラウザで開くを選択します。

結果：グループウェアがブラウザで開きます。ファイルが表示されます。

関連トピック

- [ブラウザでOffice ドキュメントを編集 \(p. 16\)](#)
- [macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

4.1.5 ブラウザでOffice ドキュメントを編集

グループウェアのローカルDriveフォルダのドキュメントを表示して、閲覧または編集できます。

Office ドキュメントを開く

注：この機能をmacOSワークステーションで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ご利用のシステムのファイルブラウザでローカルDriveフォルダを開きます。
2. ブラウザで編集を選択します。

結果：グループウェアがブラウザで開きます。それぞれのアプリケーションでファイルが表示されます。

注：Office ドキュメントの編集についての情報は、Documentsのユーザガイドを参照してください。

関連トピック

- [ブラウザにファイルを表示 \(p. 16\)](#)
- [macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

4.1.6 パブリックリンクを使った共有


パブリックリンクを作成すると、読み取りアクセスでデータを共有できます。そのリンクをパートナーに送ることができます。このリンクを得たユーザは、データを見ることができます。

次のようなオプションの機能があります。

- アクセス用のパスワードを設定できます。
- 固有の期間切れたら（例えば1ヶ月）リンクが無効にすることができます。
- パブリックリンクを無効にすることができます。

パブリックリンクを作成すると、読み取りアクセスでデータを共有できます：

注：この機能をmacOSワークステーションで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ご利用のシステムのファイルブラウザでローカルDriveフォルダーを開きます。
2. ローカルDriveフォルダでフォルダまたはファイルのコンテキストメニューを表示します。**共有リンクを作成**を選択します。
選択アイテムをすでに共有している場合、次のステップ時に共有パラメータを変更できます。ウィンドウが表示されます。共有ファイルの読み取りアクセス用のパブリックリンクを含みます。
3. リンクを共有するには、次のオプションがあります：
 - 他のアプリケーションにリンクを追加するには、次のことを行います：
 - Windowsシステムでは、他のアプリケーションにリンクを挿入するには、リンクの隣のURLをクリックボードにコピーアイコンをクリックします。
 - macOSシステムでは、リンクをクリップボードにコピーをクリックします。
 - リンクをメールで直接送信するには、**メールで送信**をクリックします。利用したいメールアドレスを入力します。必要に応じて、メッセージを入力します。
4. 次のようなオプションの機能があります。
 - 規定では、データは無制限で読み取りアクセスがある状態で共有されます。共有データへのアクセスに時間制限を設ける場合は、**リンクの有効期限**を有効にします。日付を選択します。
 - パスワードでアクセスを保護する場合は**パスワードだけのアクセス**を有効にします。パスワードを入力します。パスワードをテキストとして表示するには、**パスワードを表示または非表示にする**アイコンをクリックします。
メールごとにパブリックリンクを送信する場合、メールにはパスワードが含まれます。
 - 共有アイテムへのアクセスを無効にするには、**リンクを削除**をクリックします。
5. 完了をクリックします。

関連トピック

[共有アイテムへの招待 \(p. 18\)](#)

[macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

4.1.7 共有アイテムへの招待

固有の人と読み取りまたは編集アクセスでデータを共有するには、内部ユーザと外部パートナーを共有アイテムへ招待ができます。ユーザは招待メールを受信します。外部パートナーが共有ファイルにアクセスする場合、パートナーは自動でゲストユーザとしてログインします。

メールで内部ユーザまたは外部パートナーを共有ファイルに招待する：

注：この機能をmacOSワークステーションで使う前にDriveFinder Extension を有効にしなければなりません。

1. ローカルDriveフォルダでフォルダまたはファイルのコンテキストメニューを表示します。
2. この機能を選択：
 - Windows システムの場合：招待
 - macOS システムの場合：招待ウィンドウが表示されます。共有アイテムへの招待を行うための機能を提供します。
3. 次のアクションを行います。
 - Windows システムの場合：招待を作成宛先を追加に名前、またはメールアドレスを入力します。サブフォルダーも共有するには、**全てのサブフォルダに適用**を有効にします。
 - macOS システムの場合：招待タブを選択します。+アイコンをクリックします。名前またはメールアドレスを入力します。受取人を入力しているときに、受取人の候補が表示されます。候補を選択するには、その候補をクリックしてください。メールアドレスは、内部ユーザ、グループ、またはゲストとして一覧に追加されず。既定の許可が付与されます。必要に応じて、メッセージを入力します。
4. 招待を管理タブの権限を編集するには、次のオプションがあります：
 - ユーザロールを調節するには、名前の隣にある現在の有効なロールをクリックします。メニューで、目的の項目を選択します。
 - 権限を削除するには、名前の隣にあるそれぞれのアイコンをクリックします。
5. 選択アイテムをすでに共有している場合は共有パラメータを変更できます。変更するには、招待を管理タブを選択します。
6. 適用をクリックします。

関連トピック

[パブリックリンクを使った共有 \(p. 17\)](#)

[macOSのFinder Extensionを有効にする \(p. 16\)](#)

4.1.8 同期を一時停止

同期を一時停止して、再開することができます。

同期を一時停止する：

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. コンテキストメニューでは、次の機能を使用します：
 - Windows システムの場合：
同期の一時停止を選択します。
同期を再開するには、同期を再開 をクリックします。
 - macOS システムの場合：
一時停止を選択します。
同期を再開するには、再開 をクリックします。

4.1.9 Driveアプリケーションを閉じる

Driveアプリケーションを閉じる：

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
Driveアイコンは、こちらを参照してください：
 - Windowsシステム：タスクバーの通知エリア
 - macOSシステム：メニューバーのステータスメニュー
2. ドライブを閉じるを選択

4.1.10 ワークステーションでの設定

ワークステーションでDriveクライアント機能を使用する：

1. Drive アイコンのコンテキスト メニューを開きます。
2. コンテキスト メニューから設定を選択します。

Windows と macOS では設定は異なります。

環境設定, Windows

■ 全般

- 言語Driveアプリケーションのユーザ インターフェースの言語を指定します。
- 自動起動システム起動時にDriveアプリケーションが自動的に起動するかどうかを指定します。
- Windows Explorer への統合フォルダーとファイルの同期状態をWindows Explorerに表示するかどうかを指定します。

■ アカウント

アカウントには、サーバアドレス、ログインデータ、サーバフォルダ、ローカルフォルダ、保存量が含まれます。次の機能が利用できます。

□ 有効なアカウント タブ

複数のアカウントがある場合：無効なアカウント

複数のアカウントを作成し、別々のフォルダーに割り当てることができます。有効なアカウントにリンクされたフォルダーのみが同期されます。

- アカウント名、サーバーウェブアドレス
- 有効 ボタンアカウントが有効されていることを示します。クリックすると、アカウントが無効化されます。同期を停止します。ボタンが無効に変更されます。クリックすると、アカウントが再び有効化されます。
- ローカルフォルダーを変更するアカウントのフォルダーを変更します。
注：無効なアカウントのローカルフォルダーは変更できません。
- ローカルフォルダローカルフォルダを表示します。クリックすると、ローカルフォルダーがファイルブラウザに開きます。
- 同期データを変更このアカウントに同期されるフォルダーを変更します。
注：無効なアカウントのフォルダーは変更できません。
- 有効なアカウント：合計サイズ、空き容量
- アカウントを削除このアカウントに設定されている同期を終了します。アカウントを削除します。
注：この機能を使用すると、データは、ローカルからもサーバからも削除されます。
- アカウントを追加追加アカウントを作成するためのDriveセットアップ ウィザードを起動します。

■ 通知

同期中に発生したエラーを表示します。同期中断の通知があった場合は、繰り返しをクリックします。可能であれば、同期が行われます。

■ 詳細

次の機能が利用できます。

□ デバッグおよび診断

- サーバログこの設定が有効になると、グループウェアサーバ通知もログファイルに書き込まれます。
- SQLログこの設定が有効になると、sqlデータベースアクションに関する通知もログファイルに書き込まれます。
- ログファイルを表示既定のテキストエディタに現在のログファイルを表示します。ログファイル内容の範囲は上記設定によって異なります。
- ログファイルを保存ログファイルおよび様々なシステム情報をZIPアーカイブとして保存します。
- プロキシ設定ここでは、プロキシ設定を変更できます。

- **バージョン情報**
Driveアプリケーションバージョンと更新ステータスに関する情報を表示します。次の機能が利用できます。
 - **自動更新**アプリケーションが起動時に新規バージョンであることを確認するかどうかを指定します。
 - **更新が可能です。**アプリケーションに現在の更新が含まれるかどうかを表示します。

環境設定, macOS

- **全般**
 - **言語**Driveアプリケーションのユーザ インターフェースの言語を指定します。
 - **自動起動**システム起動時にDriveアプリケーションが自動的に起動するかどうかを指定します。
- **アカウント**
アカウントには、サーバアドレス、ログインデータ、サーバフォルダ、ローカルフォルダ、保存量が含まれます。次の機能が利用できます。
 - **アカウント名**
 - **ローカル フォルダー:**ローカルフォルダを表示します。別のローカルフォルダを使用するには、リストをクリックします。ローカルフォルダのパスを表示するには、リストの隣にあるアイコンをクリックします。
 - **同期フォルダー**このアカウントに別のサーバフォルダを使用するには、**変更**をクリックします。
 - **サーバー URL:**サーバアドレスを表示します。
サーバーバージョン:サーバーバージョンを表示します。
 - **プロファイルを削除**このアカウントに設定されている同期を終了します。アカウントを削除します。
注: この機能を使用すると、データは、ローカルからもサーバからも削除されます。
- **通知**
同期中に発生したエラーを表示します。同期中断の通知があった場合は、**繰り返し**をクリックします。可能であれば、同期が行われます。
- **プロキシタブ**
使用しているプロキシの設定を表示します。ここでは、プロキシ設定を変更できます。
- **バージョン情報タブ**
Driveアプリケーションバージョンと更新ステータスに関する情報を表示します。次の機能が利用できます。
 - **診断モード**総合情報をログファイルに書き込むかどうかを指定します。診断モードが無効の場合、簡略した情報のみが書き込まれます。Drive アプリケーションと同じディレクトリにログ ファイルが保存されます。

4.2 モバイルデバイスでの使用

モバイルデバイスでは、次の機能が利用できます。

- [オブジェクトの閲覧、検索、ソート \(p. 23\)](#)
オブジェクトはサーバーまたはモバイルデバイスにあります。
- [オフラインでオブジェクトを利用可能にする \(p. 24\)](#)
オブジェクトがモバイルデバイスへダウンロードされます。
- [新規オブジェクトの作成 \(p. 24\)](#)
オブジェクトはモバイルデバイスで作成し、サーバーにアップロードします。
- [オブジェクトを管理 \(p. 25\)](#)
オブジェクトの移動、名前の変更、削除ができます。変更はサーバーと同期されます。
- [オブジェクトの共有 \(p. 26\)](#)
オブジェクトがそれぞれサーバーに共有されます。
- [写真やビデオのための特殊な機能を使用 \(p. 27\)](#)
- [モバイルデバイス上での設定 \(p. 28\)](#)

4.2.1 オブジェクトの閲覧、検索、ソート

オブジェクトを表示するには、次の機能を使用します：

- 表示するオブジェクトを選択：すべてのオブジェクト、写真や最近使用したファイルのようなオブジェクト、オフラインで利用可能なオブジェクト
- ビューの選択：グリッドまたはリスト
- オブジェクトを検索するための検索用語の使用
- 名前、サイズ、日付でのオブジェクトのソート

モバイルデバイスでオブジェクトを表示する

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。サーバに個人用ファイルまたはフォルダを表示するには、**すべてのファイル**を選択します。

特定のオブジェクトのみを表示するには、その他のビューも利用できます：

- **すべての画像** は画像とビデオのみを表示します。
- **最近開いた** は最近開いたファイルのみを表示します。
- **オフラインで利用可能** はモバイルデバイスへダウンロードしたファイルまたはフォルダのみを表示します。データはローカルに保存されます。これにより、サーバ接続がない場合でもデータが利用可能になります。
- **自分の共有ファイル** は他のユーザと共有しているファイルまたはフォルダのみを表示します。
- **ごみ箱** はごみ箱のオブジェクト数とそのオブジェクトに使用されるストレージスペースを表示します。
警告：ごみ箱からオブジェクトを削除すると元に戻すことはできません。
オブジェクトを完全に削除するには、**すべてを削除**をタップします。

2. フォルダを開くには、フォルダをタップします。

注：選択したビューによって、フォルダは表示されない可能性があります。

3. 機能バーで、目的の機能を選択します：

- ビューを選択するには、右側にあるメニューアイコンをタップします。選択したビューに応じて、次のいずれかの方法を使用します。**リストビュー**、**プレビュービュー**
- オブジェクトをソートするには、**ソート**をタップします。
- オブジェクトを検索するには、**検索** アイコンをタップします。検索用語を入力します。名前に検索用語を含むオブジェクトが表示されます。

注：選択したビューによって、利用可能な機能が異なります。

4. オブジェクトの詳細ビューを表示するには、そのオブジェクトをタップします。

関連トピック

オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 24)

新規オブジェクトの作成 (p. 24)

オブジェクトを管理 (p. 25)

オブジェクトの共有 (p. 26)

写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 27)

4.2.2 オフラインでオブジェクトを利用可能にする

モバイルデバイスでは、オブジェクトをオフラインで利用可能にするには、サーバからモバイルデバイスへオブジェクトをダウンロードします。

モバイルデバイスで単一のオブジェクトをオフラインで利用可能にする

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。すべてのファイル またはその他の適したビューを選択します。
2. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。オブジェクトの隣にあるメニュー アイコンをタップします。
3. **オフラインで利用可能にする**を有効にします。オブジェクトがモバイルデバイスへダウンロードされます。オフラインで利用可能なアイコン④でラベル表示されます。

ヒント：オフラインで利用可能なオブジェクトのみを表示するには、メニューアイコンをタップします。**オフライン** を選択します。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 23)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 24)
- オブジェクトを管理 (p. 25)
- オブジェクトの共有 (p. 26)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 27)

4.2.3 新規オブジェクトの作成

モバイルデバイスによって、次のいずれかの機能を使用して新規オブジェクトを作成できます。

- 新規の写真を撮影
- 新規フォルダを作成します
- ファイルをアップロード

モバイルデバイスで新規オブジェクトを作成する

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。ファイル を選択します。
2. 新規オブジェクトを作成する先のフォルダを開きます。
3. 下部の追加アイコン➕をタップします。
4. メニューで、目的の機能を選択します：
 - 新規の写真を撮影して、追加するには、カメラから を選択します。
 - 新規フォルダを作成するには、フォルダを作成を選択します。
 - 既存のファイルを追加するには、ファイルをアップロードを選択します。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 23)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 24)
- オブジェクトを管理 (p. 25)
- オブジェクトの共有 (p. 26)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 27)

4.2.4 オブジェクトを管理

モバイルデバイスでは、オブジェクト管理のために次の機能を使用できます：

- 単一のオブジェクトの移動、名前の変更、削除
- 複数のオブジェクトの移動、削除

モバイルデバイスでの単一のオブジェクトを移動、名前の変更、削除をする

警告： Driveアプリケーションで、オブジェクトを削除すると、そのオブジェクトはサーバや他のすべてのクライアントからも削除されます。

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。すべてのファイル またはその他の適したビューを選択します。
2. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。
オブジェクトの隣にあるメニュー アイコンをタップします。
3. メニューで、目的の機能を選択します：
 - オブジェクトの名前を変更するには名前を変更を選択します。
 - オブジェクトの移動するには移動を選択します。
 - オブジェクトの削除するには削除を選択します。

モバイルデバイスでの複数のオブジェクトの移動、削除をする

警告： Driveアプリケーションで、オブジェクトを削除すると、そのオブジェクトはサーバや他のすべてのクライアントからも削除されます。

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。すべてのファイル またはその他の適したビューを選択します。
2. フォルダを開くには、フォルダをタップします。
3. 機能バーの右側にあるメニューアイコンをタップします。選択をタップします。
チェックボックスは、オブジェクトの隣に表示されます。
4. オブジェクトをタップして、一つまたは複数のオブジェクトを選択します。
5. リストの下の目的の機能を選択します：
 - 選択したオブジェクトを削除するには、削除をタップします。
 - 選択したオブジェクトを移動するには、移動 をタップします。
オブジェクトを移動する先のフォルダを選択します。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 23)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 24)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 24)
- オブジェクトの共有 (p. 26)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 27)

4.2.5 オブジェクトの共有

モバイルデバイスで読み取り権限または編集権限のあるオブジェクトを共有できます。この機能を使用して、グループウェアサーバのオブジェクトを共有できます。

モバイルデバイスでオブジェクトを共有する

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。すべてのファイル またはその他の適したビューを選択します。
2. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。
オブジェクトの隣にあるメニュー アイコンをタップします。
3. 次の機能のいずれか一つを選択します：
 - 内部ユーザまたは外部パートナーを共有ファイルに招待メールを送るには **招待** を選択します。新規ページを表示します。
アイテムが招待ですでに共有されている場合は、その名前と権限が表示されます。
共有に招待する場合は、メールアドレスをメッセージを入力します。規定の許可をタップして、カスタマイズします。手順を完了するには、下部の招待をタップします。
 - 読み取りアクセスのついたデータの共有にパブリックリンクを使用するには、**リンクを取得**を選択します。新規ページを表示します。
リンクの有効期限やアクセスパスワードの設定ができます。**リンクを取得**をクリックします。アイテムがサーバで共有されます。
同期されるとすぐに、次のボタンが表示されます。
 - **リンクをコピー**リンクをクリックボードにコピーします。
 - **で共有**利用可能なアプリケーションのページが表示されます。アプリケーションを選択して、アプリケーションへリンクをコミットできます。

注：共有ファイル、または権限に関する全般的な情報は、グループウェアのユーザ ガイドを参照してください。

モバイルデバイスでオブジェクトの共有を管理する：

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。自分の共有ファイルを選択します。
2. ファイルとフォルダのリストで、目的のオブジェクトを選択します。
オブジェクトの隣にある共有アイコンをタップします。
メニューの利用したい機能をタップします。

注：共有ファイル、または権限に関する全般的な情報は、グループウェアのユーザ ガイドを参照してください。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 23)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 24)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 24)
- オブジェクトを管理 (p. 25)
- 写真やビデオのための特殊な機能を使用 (p. 27)

4.2.6 写真やビデオのための特殊な機能を使用

モバイルデバイスでは、写真やビデオ用の追加機能も利用できます：

- サーバ側で存在するすべての写真やビデオの概要を表示する。
- サーバから携帯電話のフォトギャラリーに写真またはビデオをコピーする。

サーバの写真やビデオの概要を表示する

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。
2. **すべての画像** を選択します。サーバ上の個人用フォルダにある写真やビデオを表示します。内容をソートするには、機能バーで**ソート** アイコンをタップします。ビューを変更するには、機能バーの右側にあるメニューアイコンをタップします。

サーバからモバイルデバイスのフォトギャラリーにコピーする

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。
2. **すべてのファイル** を選択します。写真やビデオの入ったフォルダを選択します。サーバ上のフォルダの写真やビデオが表示されます。
3. 機能バーの右側にあるメニューアイコンをタップします。デバイスに応じて、次のいずれかの方法を使用します。
 - Android モバイルデバイス：**デバイスに保存**
 - iOS モバイルデバイス：**カメラロールに保存**チェックボックスは、写真の隣に表示されます。一つの写真またはビデオを選択するか、**すべてを選択** をタップします。
4. **保存** をタップします。写真はローカルの写真ギャラリーのDriveサブフォルダにコピーされます。

関連トピック

- オブジェクトの閲覧、検索、ソート (p. 23)
- オフラインでオブジェクトを利用可能にする (p. 24)
- 新規オブジェクトの作成 (p. 24)
- オブジェクトを管理 (p. 25)
- オブジェクトの共有 (p. 26)

4.2.7 モバイルデバイス上での設定

モバイルデバイスでDriveアプリケーション設定を使用する

1. Drive アプリケーションで、メニュー アイコンをタップします。
2. **設定** を選択します。

次の設定が利用できます：

- **サインアウト**
サイン アウトします。同期を停止します。警告：すべてのアプリケーションデータがデバイスから削除されます。
- **ストレージスペース**
グループウェアサーバの割当量の上限に関する情報が表示されます。
- **カメラアップロード設定**
モバイルデバイスで撮影した写真をサーバに転送するかどうかを設定します。
 - **カメラアップロード**アップロードを有効化または無効化します。
 - **ビデオを含むビデオ**もアップロードするかどうかを指定します。
 - **アップロード**すべての写真およびビデオをアップロードするか、自分で撮った写真またはこの機能を有効にした後に作成したビデオのみをアップロードするかを指定します。

4.3 注意

パスワードの変更

Driveではパスワードは変更できません。ドライブ はグループウェアへのアクセスの場合と同じパスワードを使用します。

名前の制限

ファイルやフォルダを正常に同期させるには、これらの名前に特定の文字を含めないでください。

- 次のいずれかの文字がファイル名やフォルダ名にあると、それらのファイルやフォルダは同期されません。
<> : " / \ | ? *
- 次のすでに使用されているデバイス名がファイル名やフォルダ名にあると、それらのファイルやフォルダは同期されません。
CON, PRN, AUX, NUL, COM1, COM2, COM3, COM4, COM5, COM6, COM7, COM8, COM9, LPT1, LPT2, LPT3, LPT4, LPT5, LPT6, LPT7, LPT8, LPT9
- 次のファイルは同期されません。
desktop.ini, Thumbs.db, .DS_Store, icon\r
拡張子が .drivepart のファイル
Office アプリケーションでロックされたファイルなどの一時ファイル
- 次のフォルダは同期されません。
/.drive

ソフトウェアの開発状態によって、同期されないファイルやフォルダが増える可能性があります。

ファイル名の大文字と小文字

一部のシステムでは、フォルダ内のファイル名は大文字と小文字が区別されます。ローカル フォルダにそのようなファイルを作成する場合、そのうちの 1 つのみが同期されます。ローカル フォルダでは、大文字と小文字が異なるだけのファイル名は使用しないでください。

MS Windowsのファイルおよびパス名の長さ

MS Windowsワークステーションのデータは、ファイル名またはパスが255文字を超えない場合にのみ同期可能です。

複数のファイルを一度に編集しないでください。

データの損失を防ぐため、ローカル フォルダとリモート フォルダのファイル、または複数のクライアントのファイルを同時に編集しないでください。

ファイル バージョン

ローカル フォルダのファイルを変更した場合、Driveでは、リモート フォルダに新規のバージョンのファイルが作成されます。ローカル フォルダでは、最新のバージョンのファイルのみが表示されます。

索引

シンボル

インストール

モバイルデバイスへの, 11

ドキュメント, 5

フォトストリーム フォルダ, 27

モバイルデバイス

オブジェクト作成, 24

オブジェクト共有, 26

オブジェクト管理, 24, 25

検索、フィルタ、ソート, 23

転送された写真やビデオを表示, 27

ワークステーション

Driveアプリケーションを閉じます。 , 19

Finder Extension を有効にする, 16

インストール, 10

パブリックリンクで共有, 17

ブラウザでOffice ドキュメントを編集, 16

ブラウザにファイルを表示, 16

共有アイテムへの招待, 18

同期を一時停止, 19

同期データを表示, 15

同期フォルダを変更, 15

注

MS Windowsのファイルおよびパス名の長さ, 29

注:

ファイル バージョン, 29

名前の制限, 29

注意, 29

ファイル名の大文字と小文字, 29

複数のファイルを一度に編集しないでください, 29

注:

パスワードの変更, 29

設定, ワークステーション, 20

設定, モバイルデバイス, 28

カメラからのインポート, 28

サインアウト, 28

割当量, 28

設定, ワークステーション

macOS, 21

Windows, 20

D

Driveアプリケーション, 7

Driveアプリケーションの使用

モバイルデバイスへの, 22

Driveアプリケーションを

インストールします, 9

使用, 13

Driveアプリケーションを利用する

ワークステーションで, 14

M

macOS

Finder Extension を有効にする, 16
